

# 令和5年度花粉測定講習会

とき 令和5年12月10日(日) 10:00~12:00

ところ 山口県医師会6階 会議室

## 講演1

### 2023年のスギ・ヒノキ花粉の飛散のまとめと 2024年の飛散予測

山口県医師会副会長 沖中 芳彦

山口県医師会の花粉情報委員会は1995年に発足し、以後、多くの機関に空中花粉の観測を行っていただいている。最多は2008年の28機関であったが年々減少し、2020年からは19機関となった。2024年シーズンも19機関で観測を行うため、測定担当者に謝辞を述べた。

2023年シーズンの花粉飛散総数は、スギが平年値(直近10年間の平均値)3,050個/cm<sup>2</sup>に対し6,430個/cm<sup>2</sup>、ヒノキも平年値1,680個/cm<sup>2</sup>に対し4,696個/cm<sup>2</sup>で、スギ、ヒノキともに平年値を大きく上回り、これまでで最多となった。近年は、スギ、ヒノキともに、北部で非常に多くなっている。2024年シーズンを迎えての平年値は、スギが3,260個/cm<sup>2</sup>、ヒノキは1,920個/cm<sup>2</sup>である。

定点木の観察によると、夏の記録的な猛暑にもかかわらず、スギは昨シーズンに比べてかなり少ない着花状態であり、従来どおりの方法で予測したところ、スギは1,300個/cm<sup>2</sup>程度の総数となった。ただし、定点観察木以外の木には、多くの雄花を着けている木も少なからず存在する。

スギは秋にも飛散するが、秋の飛散と本格シーズンの飛散との間に正の相関があるとも言われている。当測定点の観察では、史上最多となった昨シーズンの秋のスギ花粉捕集数と比べると、今シーズンのスギ花粉の捕集数は、12月上旬の時点でかなり少なくなっている。

スギの1,300個という数字は、平年の半分以下の値である。主要3機関の2024年の山口県の予測(第1報)は、スギ・ヒノキの合計として、それぞれ平年の110~150%、平年の80~120%、平年の50%強とさまざまである。はた

してどのような飛散となるでしょうか。

[文責:副会長 沖中 芳彦]

## 講演2

### 春に飛ぶ花粉の見分け方

山口県医師会花粉情報委員 綿貫 浩一

花粉の時期になると、呼吸が苦しくなり、普段から風邪を引きやすいというお子さんを診ることがある。鼻の中が腫れており、奥はほとんど閉塞しているような状態であった。実際に、花粉症の発症年齢は低年齢化しており、2歳で発症しているケースもある。また、91歳や93歳でも発症するケースもあり、乳幼児から高齢者まで、全年齢で発症しうる病気である。

花粉症は、原因を体内に取り込まなければ症状は出ない。花粉症の方が花粉を吸わないためには、正確な花粉飛散予測が非常に大切で、そのために皆様の日々の地道な花粉測定が重要となる。

スギ花粉は、春に花粉測定をすれば一番見る花粉で、一番の特徴はパピラという角がある。ただし、パピラは角度によっては見えない時もある。ヒノキ花粉にはパピラはなく、まん丸で細胞内容物は真ん中に寄っているという特徴がある。イネ科は、サイズはいろいろあるが、少し大きい印象がある。

その他、ハンノキ、ブナ科の花粉などを、実際の写真を基に丁寧に説明された。

## 特別講演

### 新時代に向けたアレルギー性結膜炎診療と研究

高知大学医学部眼科学講座准教授 福田 憲

福田先生は、山口大学眼科学教室の同門であり、アレルギー性眼疾患の専門家として全国各地で講演をされている。今回の花粉測定講習会では、アレルギー性結膜炎について基本的知識から最新情報までをお話しいただいた。

まず有病率48.7%とも報告されるアレルギー性結膜疾患の分類、角膜に比べ結膜の特徴は、上皮バリアが弱く小物質の透過性が高い、免疫細胞が豊富、アレルギー反応が生じやすい。

小児のアレルギー性結膜炎では、問診が難しい、保護者が子供の症状を把握していない、点眼液が上手にできない、薬剤の副作用が生じやすいなどの注意が必要。

抗アレルギー点眼薬の使い方、花粉性結膜炎に対する点眼開始時期の指導、季節性アレルギー性結膜炎のセルフケアなどの患者指導は、参加者の多くを占める薬剤師の先生方にも興味深いものであったと思う。

結膜囊のスギ花粉が、涙液中で破裂する動画から、花粉を洗い流す重要性を認識した（テレビでよく宣伝している洗眼アイテムではなく、点眼型が有効）。

頻度の高いアレルギー性結膜炎は、労働生産性を低下させ、1日約2.215億円の経済的損失を生じているが、過剰治療に注意。頻度は少ないものの小児に多い春季カタルは、永続的な角膜癬痕を防止するため過少治療に注意。

減感作療法としてのスギ花粉症緩和剤の研究「一日一膳」は、これが学校給食に使われたらと驚くエピソードだった。

この講演は、薬剤師、耳鼻咽喉科医、眼科医、それぞれが得るものの多く、私自身は、このおなじみの疾患に対して新しい視点を持てたように思う。

**花粉測定の実技講習**

花粉測定の精度を高めるために、実技講習を開催した。測定の経験が浅い方は花粉情報委員長の金谷浩一郎先生の指導によりスギ、ヒノキ等の乾燥花粉を用いて実際にプレパラートを作成し、それを顕微鏡で観察して、それぞれの花粉の特徴を理解する作業を経験していただく実技講習を受けていただいた。出席者間で情報交換もでき、有意義な実技講習となった。

[文責：常任理事 長谷川奈津江]

**測定地点**

地区	地域	測定機関（敬称略）
東部	岩 国	河田尚己
東部	岩 国	小林耳鼻咽喉科医院
東部	柳 井	周東総合病院
東部	柳 井	松田医院耳鼻咽喉科
東部	大 島	さくら薬局
東部	光	光市立光総合病院
中部	防 府	ひよしくリニック
中部	防 府	カワムラ薬局
中部	山 口	済生会山口総合病院
中部	山 口	耳鼻咽喉科かめやまクリニック
中部	小 郡	小郡第一総合病院
西部	宇 部	沖中耳鼻咽喉科クリニック
西部	小野田	山陽小野田市民病院
西部	下 関	下関市薬剤師会
北部	美祢市	美祢市立病院
北部	長 門	長門総合病院
北部	長 門	綿貫耳鼻咽喉科
北部	萩	ナカモト薬局
北部	萩	堀耳鼻咽喉科医院

